

2 計画の基本的事項

2-1. 計画の目的

本計画は、村上市全域から排出される温室効果ガスの排出量を削減することを目的としています。この目的を達成するため、市民、事業者、行政の協働により取り組みや施策を推進します。

温室効果ガスの排出量削減に関しては、京都議定書において、先進国の温室効果ガス排出量について、法的拘束力のある数値約束を各国ごとに設定されています。京都議定書では、1990年を基準年として、第一約束期間である2008年～2012年の5年間に、目標値である日本6%、米国7%、EU8%等、先進国全体で少なくとも5%を目指すとしています。

この京都議定書の発効を受けて、日本では1998年10月に「地球温暖化対策の推進に関する法律」が制定され、最近では2008年6月に改定されています。これを受け、2008年3月に「京都議定書目標達成計画」（2005年4月）についても、以下の対策・施策の追加・強化を盛り込んだ改定計画が閣議決定されました。

- 住宅・建築物の省エネルギー性能のさらなる向上
- トップランナー機器等の対策の強化
- 工場・事業場の省エネルギー対策の拡充
- 自動車の燃費の一層の改善

また、クールアース50で提案した長期目標である「世界全体の排出量を現状から2050年までに半減」の達成に積極的に貢献するため、第一に京都議定書の6%削減約束の確実な達成を図り、さらに、中長期的には、継続的かつ大幅な排出量削減を実現していくものとしています。

2-2. 計画の位置づけ

本計画は、本市の行政の根幹をなす「第1次村上市総合計画」における本市の環境に関わる基本構想・基本計画及び個別の施策、さらには「村上市環境基本計画」における各種施策及び取り組みと整合するものとし、また、本計画は、本市における「村上地域循環型社会形成推進地域計画」等の各種計画との連携により推進されるものです。

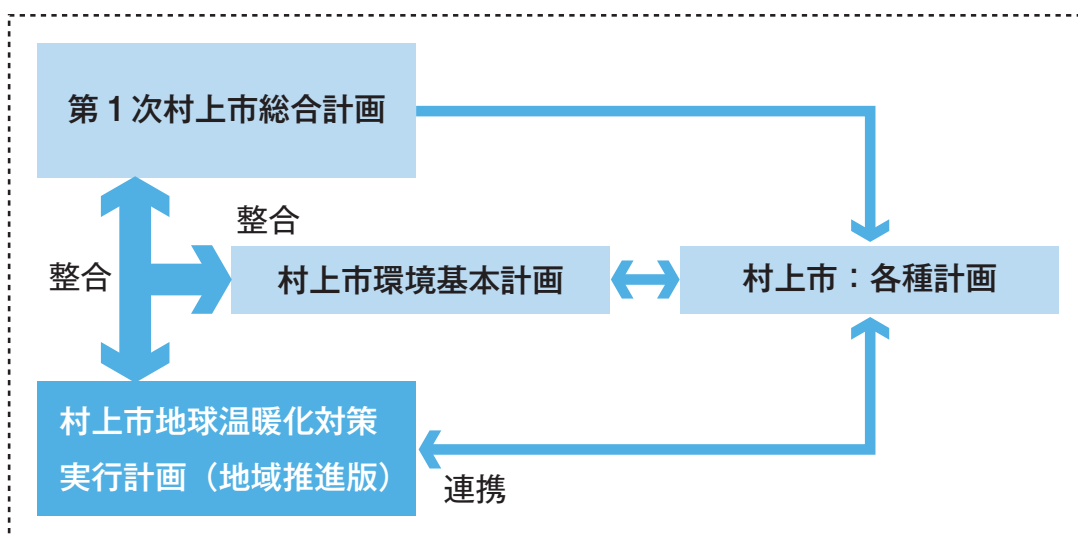


図1-2-2 村上市地球温暖化対策実行計画の位置づけ

2-3. 計画の期間及び基準年度・目標年度

本計画の期間は、2011年度（平成23年度）から2020年度（平成32年度）までの10年間とします。

また、基準年度については、京都議定書と同様に1990年度（平成2年度）、及び現状の把握が可能な直近の年度である2007年度（平成19年度）とします。さらに、目標年度として、2020年度、2050年度を目処とした中・長期的な構想を設定するものとします。

2-4. 計画の対象とする対象地域

本計画における対象地域は、村上市全域とします。

ただし、地球温暖化対策における温室効果ガスの排出量の算定等にあたっては、隣接市町村あるいは新潟県内全域も検討対象とします。

2-5. 対象となる温室効果ガス

本計画において対象となる温室効果ガスは、「地球温暖化対策の推進に関する法律」第2条第3項に規定する以下の6つのガスを対象とします。

表1-2-1 本計画において対象とする温室効果ガスの種類

ガスの種類	性質	地球温暖化係数 ※	
二酸化炭素 (CO ₂)	代表的な温室効果ガス。物を燃焼することで生成する。	1	
メタン (CH ₄)	天然ガスの主成分で、常温で気体。よく燃える。	21	
一酸化二窒素 (N ₂ O)	窒素酸化物の中で最も安定した物質。 他の窒素酸化物 (二酸化窒素等) のような害はない。	310	
代替フロン類	ハイドロフルオロカーボン (HFC)	塩素がなく、オゾン層を破壊しないフロン。 強力な温室効果ガス。	1,300 (140~11,700)
	パーフルオロカーボン (PFC)	炭素とフッ素からなるフロン。強力な温室効果ガス。	6,500~9,200
	六フッ化硫黄 (SF ₆)	硫黄とフッ素からなるフロン。強力な温室効果ガス。	23,900

※地球温暖化係数：個々の温室効果ガスの地球温暖化に対する効果を、その持続時間も加味したうえで、CO₂の効果に対して相対的に表す指標

表1-2-2 温室効果ガスの発生源

二酸化炭素 (CO ₂)		
エネルギー利用	エネルギー転換	火力発電所、ガス事業所及び石油精製所における化石燃料及び電力の消費 (自家消費)
	産業	製造業、農林業、水産業、建設業及び工業における化石燃料及び電力の消費
	民生	家庭、事業所、店舗等における電気、ガス、灯油などの消費
	運輸	自動車、鉄道、船舶、航空機の化石燃料及び電力の消費
廃棄物		廃棄物の焼却
工業用プロセス		セメント製造工時における石灰石の利用
メタン (CH ₄)		
エネルギー利用		燃料の焼却施設や機械器具における燃料の燃焼
農業		水田 (嫌気性状態)
燃料の採掘		家畜の消費活動 (腸内発酵) 及び糞尿 (嫌気性発酵)
廃棄物		廃棄物の埋立、焼却及び下水道処理工程
一酸化二窒素 (N ₂ O)		
エネルギー利用		燃料の焼却施設や機械器具における燃料の燃焼
医療ガスの使用		医療ガスの使用
農業		窒素系肥料の使用
		家畜の糞尿
		農業廃棄物の焼却
代替フロン類		
ハイドロフルオロカーボン (HFC)		カーエアコンや冷蔵庫などの冷媒、工業用エアゾール等
パーフルオロカーボン (PFC)		電子機器税増での半導体エッチング、洗浄乾燥等
六フッ化硫黄 (SF ₆)		電子絶縁用ガス、半導体エッチング